

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 山ノ内町立東小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒381-0401

長野県下高井郡山ノ内町平穏3100

E-mail yudanaka@valley.ne.jp

Website http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyouiku/higashisho.html

幼児児童生徒数 男子 128 名 女子 120 名 合計 248 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

1. 団体の概要

本校は「〇よく考え行いう子 (かしこく) 〇気力にあふれやりぬく子 (たくましく) 〇なかよく力を合わせる子 (やさしく)」を学校目標としている。ESD 教育に関しては E...いいと思うことを S...すすんで D...できる子 を活動テーマとして、ESD を「自ら考え、自ら行い、自らを高める活動」と捉え、ESD の実践を通して変化の激しい社会を心豊かにたくましく生き抜いていく基盤となる力の育成を目標とした。

2. 活動のポイント

- ① 発表活動や他の学校・地域との交流活動を通して自らの思いを伝えたり新たなことを学びとったりしながら、自らの生き方や新しい価値に気づく。
- ② 志賀高原ユネスコエコパークプロジェクト「ABMORIーいのちを守る森づくり」や志賀高原の蓮池外来種駆除活動等の環境保護活動へ参加したり、りんご・そば・大豆等の地域の特色ある農産物の栽培、収穫を地域の方と共に行ったりすることを通して、先人に対する感謝やふるさとを大事に思い、受け継いでいこうという気持ちを育てる。

- ③ 学年に応じた環境保全活動や特色ある産業について進んで調べ、志賀高原ユネスコエコパークエリアにある山ノ内町の特徴を知り、どのように行動すればよいか考え、課題を解決する力をつける。

3. 活動の成果

(1) どんぐりの苗づくり活動（1・2年生）【②③】

・将来植樹活動で植える苗を育てるため、志賀高原で生まれたどんぐりを植える活動を行った。町の担当の方からどのように樹木が育ち志賀高原のような自然を形作っているのかお話を聞き、自分たちが植えたどんぐりへの期待を高めた。

(2) リンゴ栽培活動（3年生）【①②】

・果樹農家でリンゴ栽培を体験した。摘花から収穫までの過程を体験する中で、自分たちの名前入りのリンゴを育て、生産者の工夫や生産物への愛着を感じることができた。他の農産物への興味関心も高まり、エノキダケの工場見学にもつながった。学習の成果は、全校や保護者・地域の方々へ発表した。

(3) コカリナ学習【①②③】

・山ノ内発祥の楽器であるコカリナは、山ノ内町内どここの小学校でも実施されている。本校でも4年生以上の児童全員が取り組んでおり、コカリナクラブでは参加児童がより多くの曲目を演奏している。4学年では、コカリナにより親しもうと、コカリナ制作にも携わっている地域の方を講師にコカリナの吹き方を学んだことをきっかけに、コカリナについて調べたり、演奏できる曲目を増やしたりといった活動に取り組んだ。他学年や保護者の皆さん、地域の方々にも学習の成果や演奏を発表してきた。児童はコカリナへの関心が高まり、地域の楽器として誇りを持ってこれからも演奏したい、全国にも広めていきたいと次の活動への意欲を高めている。



(1) どんぐりの成長を祈って
「大きくな～れ！」



(2) リンゴの収穫
「山ノ内の、ぼく達のリンゴだよ。うれしいな。」



(3) 志賀高原の自然の中でコカリナ演奏

（４）スキー場跡地で植樹活動【①②③】

・昨年度に引き続き、町主催の植樹活動に参加した。長野オリンピック開催時に伐採された志賀高原の樹木から生まれたコカリナを全国から来られた参加者の前で演奏した。演奏は町内３校の６年生全員での演奏となり、演奏を通して交流を深めることもできた。

植樹作業はグループで役割を分担し、効率よく取り組むことができた。毎年参加をいただいている歌舞伎役者の市川海老蔵さんにも子ども達の頑張りを認めていただき、今後の活動の意欲にもつながった。子ども達からは「この活動を続けることが大切だと思う。」「志賀高原の自然を大切にしていきたい。」との感想が聞かれた。

（５）志賀高原蓮池周辺での外来種駆除活動・遊歩道整備作業【②③】

・志賀高原蓮池周辺で地域の皆さんと協力して外来種駆除活動および、遊歩道整備作業に参加した。同活動では、町のユネスコエコパーク担当の方から、志賀高原とユネスコエコパークについての理解を深めるための授業を受け、何のための活動であるのかについて学習を行った。この学習は、志賀高原の現状と課題を把握し、今後どのように自分たちが関わっていけば良いのかを考えるきっかけとなっている。

作業では、下草刈りや運搬、土や石を運んで遊歩道となる木道を埋め込むなどの力の必要な作業だったが、自分たちの取り組みが自然を守ることにつながることを身をもって実感することができ、積極的に作業に参加していた。



（５）ユネスコエコパークについての授業。
「志賀高原の自然は放っておいてはいけないんだな。」



（５）遊歩道整備作業
雨の中での大変な作業。「自分たちの力が自然を守るんだ。」

①活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

<input type="checkbox"/> ✓1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> ✓2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> ✓3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> ✓4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> ✓5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> ✓6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> ✓7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> ✓8. その他(自由記入 自分たちの地域に誇りと愛着をもち、活動する態度)	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

--

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各教科や総合的な活動の時間に位置づけて活動を行っている。また、活動の見通しをもち、教科横断的に目標を達成するために、ESD カレンダーを作成、内容の修正を行っている。指導内容については、児童の興味関心を大切にしながら、地域の実情により合った内容になるように、また地域の人材を活用することを念頭に置きながら決定するようにしている。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌の中に ESD 教育担当を位置づけて、中核となって活動できるよう体制を整えている。また、継続的に取り組めるように、学校全体で中核となる学年ごとの活動を決め出すように今後取り組んでいく。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部では、担任同士で活動の反省を行っている。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

活動の成果については、各学年ごとの学習発表会として位置づけて、他学年児童、保護者や地域の方々に発信している。子ども同士が見合うことにより、発表の仕方の工夫を学び合い、自分たちの発表につなげることができている。また、保護者・地域の方々からは本校教育に理解を示し、以後の協力につながっている。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

信州 ESD コンソーシアム成果発表＆交流会に参加して、代表学年が活動成果の発表を行った。本校での活動を発信するだけでなく、他校の発表から共通点や参考事項を学ぶことができ、今後の活動の参考としている。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

現時点では、信州 ESD コンソーシアムへの参加、また町内の小学校・中学校と研修会などを通して交流や情報交換を行っている。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校の特長である志賀高原の自然について学ぶ活動を通して、地域の自然に対する知識や体験が増え、それに伴って地域への愛着が高まっている。また、地域の産業や地域の特産物、楽器を学ぶ活動を通して、自分の町への誇りを感じる児童が増えてきていることを感じられる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 生活科や総合的な学習の時間を使っての発表活動や他の学校・地域との交流活動。
- ・ 保育園児とのふれあい交流（1 年生）
 - ・ 町内 3 校 高原学習交流（5 年生）
 - ・ 町内行事でのコカリナの演奏（5. 6 年生）
 - ・ 町子ども議会への参加（6 年生）
- ② 志賀高原ユネスコエコパークプロジェクト「ABMORIーいのちを守る森づくり」や志賀高原の蓮池外来種駆除活動等の環境保護活動等。
- ・ ABMORI プロジェクト どんぐりの苗づくり活動（1. 2 年生）
 - ・ 苗の山採り、育苗活動（3. 4 年生）
 - ・ 市川海老蔵さんと植樹活動（5. 6 年生）
 - ・ リンゴ栽培学習（3 年生） ・ 大豆の栽培と味噌づくり（2 年生）
- ③ 学年に応じた志賀高原ユネスコエコパークエリアでの野外活動。
- ・ 全校遠足（志賀高原学習） ・ 地獄谷野猿公苑（1 年生）、
 - ・ 志賀高原各エリア（2～6 年生）
- ④ ①から③を様々な学習場面に生かす活動。